



保護者といっしょにつくる生活科

鎌倉女子大学准教授 相澤昭宏

こんな視点で
生活科
vol.3

生活科の学習活動においては、家庭や地域社会の協力が欠かせないものです。また、学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」が重視されています。そこで、子どものより深い学びの実現のために、保護者への働きかけのこつを紹介します。

① 学習のねらいを共有する

生活科では、体験や活動を通して子どもが自ら対象と関わることや、結果や成果に至るまでのプロセス、その過程での子どもの気づきを大切にしています。この考え方を、保護者と共有してみましょう。

例えば、花の栽培で重要なことは、きれいな花を咲かせることではありません。子どもたちが育てていく過程で、いろいろなことに気づきながら「植物は生命をもっていることを知り、その生命を大切にしたいと思う」気持ちを育てることです。

また、スタートカリキュラムの意義や内容についても、入学前に保護者に伝えることで、子どもだけでなく、保護者の方々にも安心してもらうことができるでしょう。生活科だよりや授業参観・懇談会などで分かりやすく、繰り返し発信していきたいですね。

② 教育活動への理解を促す

生活科だけでなく、学校の活動にも関心をもってもらうことで、保護者とより一体となって学校生活を進められるようになります。そのために、お便りやホームページなどでは、子どもの様子だけでなく、その活動のねらいや意図を伝えましょう。

例えば、学校行事については、日時や内容だけでなく、行事や子どもに対してどのような関わり方をしてほしいかも伝えることで、保護者も子どものがんばる姿や発言に着目し、その教育活動のねらいへの理解を深めてもらうことができます。

③ 生活科を日常生活に生かす

生活科における保護者とのつながりは、まち探検での見守り依頼など、単元に関わることでだけではありません。例えば、雲の様子や旬の野菜など、季節の変化に目を向けたり、まち探検で発見した「ひと・こと・もの」について話したりすることは、生活科に関連するだけでなく、保護者と子どもがいっしょになって生活を豊かにするきっかけにもなります。

また、子どもと関わる際には、子どもの気づきや表現を肯定的に受け止めることが大切です。相づちなどで子どもの表現を促すことで、自己肯定感が育つことを、いっしょに伝えておくといいですね。



④ 多様化している家庭への配慮

子どもの生活に関わる学習は、家庭の状況や教育方針、考え方、成長過程におけるエピソードと結び付いています。そのため、家庭や子どもの状況に応じた、きめ細かな配慮を心がけていくことが大切です。特に、「家庭」を「子どもが暮らし、成長を支える大人がいるところ」と広く捉え、親や親族に限定しないことが必要です。

今日、生活スタイルや家族の役割分担もますます多様化しています。保護者に思わぬ負担をかけぬよう、注意したいものです。



光村図書

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)

光村図書ウェブサイト

光村図書 | Q

